

1996. 4. 5 NO. 57



バングラデシュと
手をつなぐ会



楽しくて実のある総会にしましょう

手をつなぐ会の総会が、四月二十一日（日）にせまりました。今年も皆さんの知恵を寄せ合って一年間の活動の方向性を決めようと思います。特に今年には会の新しい方向性を求め、また質的にも深めていく時期にさしかかっています。多くの会員の皆さんが参加して意見を述べあいましょう。



とき：4月21日（日）午後2時から4時
ばしょ：アクロス福岡3階
こくさいひろば 交流室A

いってきます ✕

突然ですが、4月13日イギリスへ発ちます。1983年、祖母の死により初めて『生命』について考え、その重みを感じ、看護婦になることを決めました。たった26年しか生きていませんが、83年に継ぎ2度目の転機が94年の現地訪問でした。狭い視野の中で生活してきた私が初めて他民族、他文化に触れ、もがき、苦しんだ年でした。そして、昨年訪問時に目にした母子保健センター（以後MCH）。多くの方の心が集まって出来たMCH・村人の期待が集まったMCHです。私は責任の重さを痛感しました。バザーやチャリティコンサートで協力を呼び掛けた一人です。今後もMCHを見守り、又協力して、日本の皆さんに報告をしていかなければと思いました。その為にも現地の方とコミュニケーションを十分にとり合う必要があります。以前は『同じ人間なんだから』と軽い気持ちでいましたが、やはり言葉という手段を使わないと伝わらない事がたくさん在ります。ベンガル語も学ぶ必要があるのですが、長い目で見て、アジア全体が手をつなぐという広い視野で考えると英語は絶対必要です。94年・95年と英語が話せないという悔しさを痛感しました。もう同じ事は繰り返したくないとい気持ちから渡英を決心しました。又看護婦としての5年間を、振り返り、自分なりのまとめをしてこようと思います。勝手にしますが、いってきます。 ♡森 昌子♡

しばらく外国へ行ってきます

アジアとつきあう上でも 牧師としても 英語で相手と自由に話したいとずっと考えていました。ようやく機会が与えられたので行ってきます。5月はじめから東京へ、7月なかば帰福バングラへ。8月上旬帰国。8月17日から アメリカのシアトルで勉強します。「手をつなぐ会」としても大事な時期なのに申しわけありません。ひたすら勉強してなるべく早く帰ってきます。よろしくおねがいします。

大木松子



—カムディ村からの報告（2月度）—

〈母子保健センター〉

2月に入ってから、8件の出産がありました。その他の診療活動も、順調に行われています。また、週に3回は、ナースのうちの1名が午後から村に出向き、地域の衛生教育活動も実施しています。

以下は、母子保健センターの利用状況です。

一般診察		妊産婦診察	
受診者年齢(歳)	受診者数(名)	受診者	受診者数(名)
0 ~ 6	22	妊 婦	24
6 ~ 12	16	分娩件数	9 (内1件は往診による出産)
12歳以上	126	乳児検診	44

〈ジャパニ小学校〉

1月から新年度が始まりました。今年の新入生は76名、2年生-63名、3年生-82名、4年生-77名、5年生-31名です。

例年に比べて、新1年生の就学者数が少ないということですが、これは、

①隣村に、小学校が新設された。

②大まかではあるが、校区制を敷いた。

の2点の理由によるということでした。

2月中の全体の欠席率は、全体で12%でした。

〈職業訓練センター〉

	生徒数(名)
タイプライター	中学生...21、一般... 7
ミ シ ン	中学生...12、一般...10

☆現地からの声

診療はドクター1名、ナース2名で行っているが、お産が重なる時は人手が足りません。現在はナース1名を臨時採用しています。できれば、女性のドクターを1名増員したい。

以上がショングニ・ショングスタから送られてきた活動報告の概要です。

村の活動について、会員の皆さんの知りたいことやご意見などありましたら、ご連絡を下さい。

●運営委員会だより

今月21日(日)に総会が開かれます。そこで今月のミロンの「運営委員会だより」は総会を前にして、来年度の事業や会計についてご説明したいと思っております。当然のことながら、来年度の議案については総会において議決されるものですから、この紙面では運営委員会で議案を作る過程で、委員が考えてきたことや、議案作成理由などを述べさせていただきます。

今バングラデシュと手をつなぐ会の運営にあたり何が問題となっているか？

この問いを会員みなさんで共に考えることが大切だと思います。よりよい組織運営のためには、まず的確な問題設定とその共有が重要であると言えるでしょう。

今年、会を運営してきた中で、会員全員の方々に考えていただきたい問題等をいくつか挙げて、若干の説明を加えたいと思います。

1) 今年度の決算は赤字になりました。

赤字の額は大きくはないのですが、それでも元々経済基盤が脆弱な会ですので会の運営全体に与える影響は小さくありません。そこで、95年度の事業をもう一度点検や反省を行いました。そして、新年度の予算は、収入を現実的なものとし支出を極力抑え、赤字にならないことをこころがけて作成しています。もちろん新しく会員になって下さる方を増やしたり、さらなる募金をお願いすることも大切なことと考えています。

2) 行事や作業が、それに係わっていただいている人数に比較して、量・質共に多くなりました。

近年の会の活動の反省のひとつとして、主旨や内容がいいということから、いろいろな事業に手を広げしまったことがあります。確かに行事を行うことは意味があることなのですが、その事業を会の全体の運営や会計簿から考慮するということが少々足りなかったようです。その結果、行事や作業に携わって下さった方々は、とても忙しい思いをされました。また、いくつかの物品については在庫が生じました。このことが今年度赤字になった理由のひとつとなりました。私たちの会の行事は単に消化すればいいものではありません。皆さん忙しいなかでの活動ですので、会の目的に沿って効率的に事業を行う必要があります。このことから、今年度までの事業の目的や内容、成果等を見直した後、96年度の行事計画案については多方面から検討して作成することになりました。

3) カラムディ村への送金のうち、人件費や奨学金といった固定費の占める割合が大きくなってきました。

今年度はカラムディ村のシヨンダニ・シヨンスタへの送金は、会員やご協力をいただいた方々のお力添えで300万円を超えました。このお金は母子保健センターの建設の他、各学校の先生の人件費、奨学金、母子保健センターの医師をはじめ

めスタッフの人件費に当てられました。このうち、人件費や奨学金は、カラムディ村の方々の生活に直接関係するため毎年必ず決まった額を送金する必要があります。このような固定費が約 200 万円となり、今年で言えば送金額の 2/3、全支出の 3 割弱となりました。このお金（固定費）により、村人の何人かは生計を立ててるわけですから、ある程度の期間は減額することなく続ける必要があります。このことは私たちの会の責任であると考えています。一方、ご協力いただいている募金については、毎年決まった額が保証されているわけではありません。このことを会計簿から判断すると、収入は不定だが、支出はある一定の額は必要となっている状態にあります。このとき、支出の額が小さければ問題ないのですが、前述の通り私たちの会の会計では、かなりの部分を占めるようになってきました。私たちの会の実力から考えると、固定費の占める割合はこれが限度であると判断しています。96 年度会計を立案する際に、この固定費を中心に置いて検討してみました。会員の皆様にも会計がどのようになっているか、しっかりと関心に向けていただきたいと願っています。もちろん、まず運営委員会から会計についての情報の開示が必要であることは言うまでもありません。

4) ションダニ・シヨNSTAから母子保健センターの塀やレントゲンの設置をしたいとの要望が出ています。

母子保健センターの機能をさらに高めるため、ションダニ・シヨNSTAより前向きな提案や要望が私たちのもとに届いています。ただ前述のように固定費の占める割合が大きくなる中で、必要だからといって全ての要望に答えていくと、固定費にも響くことになりかねません。建物や設備の援助については、長期的展望や他の支出などを含めた総合的な検討の後、予算化する必要があります。

5) 会の代表である大木さんが5月に福岡を離れられるにあたり、いろいろと準備をしなければなりません。

まず、現在事務所については大木さんのご自宅を使わせていただいていますから、事務所を移転しなければなりません。幸いなことに新たな事務所が鳥飼に見つかりそうです。新年度の最初の仕事は事務所の引っ越しになるでしょう。またこれまで会の発展に大きく貢献された大木さんが、福岡にいらっしやらないことから、会の運営や渉外、募金活動、ションダニ・シヨNSTAとの交流等において様々な影響が出てくることは間違いないでしょう。しかしこのことを、組織や事務処理の見直しのための機会と捉え、運営委員会をはじめ皆さんと共に改革を行い、カラムディ村と長い交流を続けていきたいと思っています。

まず手始めが4月21日2時から、アクロス福岡3Fの「こくさいひろば」で行われる総会です。ぜひ皆さんご出席いただき、それぞれのご意見をどしどし出して下さい。皆さんのご意見が会にとって一番必要だといっていいでしょう。

総会でたくさん話し合ひましょう。(5) (文責今村 和彦 FAX092-921-5845)

私たちは砂の上に置かれた魚

「アルスIN福岡」というNGOのメンバーとして、3月7日から5日間マニラを訪れました。目的は、一昨年大木さんがパネラーとして出席された「地球家族フォーラム」のおり、フィリピンから招いたコラソン・ソリマンさんがリーダーを務めるCO-TRAIN（貧しい人を研修する非営利、非政府組織）に日本の人々から提供されたカメラを届けるためでもありました。そのカメラは、自然保護を呼びかける啓発資料や、研修のための資料作りにはなくてはならないものです。

まだ日差しがまぶしい夕方近く、アキノ空港に着きました。メトロマニラは高層ビルも建ち並ぶ活気ある街ですが、ライセンスを持ったガードマンが銃を携帯し警備をしている姿も目にします。ガイドさん曰く、ここでは車より人の命が安いのです、と。

滞在3日目、私たちメンバーは、マニラ湾を右手に見ながら車で約1時間30分南へ下ったカピテ地区を訪れました。カピテは、道路やダム建設、市街地整備などで移住させられた3800世帯の人々が住んでいる所です。「土地は与えられたが、生活はしてゆけない。前に住んでいた所では、荷かつぎ、物売り、ドライバー、うけおい洗たく、子守りなどをして日銭を稼いで生活していた。が、ここではその仕事すらない。砂の上に置かれた魚だ」と。基本的な生活に必要なすべてのものが不足していました。しかし、CO-TRAINの研修を希望して受け始め、住民で組織づくりをし、生活向上のためには何が必要で、どこへどのように交渉するかを学びはじめており、まずデイケア・センター（保育園）を造るための計画をたてていました。



説明がひととおり終わった後、住民の人たちが私たちにこう尋ねられました。「私たちは、あなたがたのために何ができますか？」と。予測もしていなかった質問に息を飲みこみました。してあげることばかり考えていた高慢な自分を恥じました。「人間としての繋がりを持ち続けましょう！」そう言って別れました。

マニラへの帰り道、灰色の雲の間から真っ赤な太陽が沈んでいくのが見えました。私は、今日会った人たちから得た経験の深さを思っていました。

バザーへのご協力 ありがとうございました！

桜も少しづつ咲きはじめ、春も間近に感じられるようになった3月31日の午後、西新商店街で恒例のバングラデシュと手をつなぐ会のバザーを行いました。

少し肌寒い中、20名ほどの会員が集まってバザーの準備をしました。午後1時からのスタートでしたが、早くから大勢の方がまわっていらっしゃいました。多くの方々のご協力で、食器類、衣類、小物類をはじめ、自然食のパンや、バングラの紅茶、手工芸品などが集まり、バザーはにぎやかなものでした。中には何度も立ち止まり買っていく方もいました。

約3時間の間でしたが、収益は87,340円となり、参加した会員も大喜びでした。手伝ってくださった会員の皆さん、お買い上げくださった皆さん、ご協力ありがとうございました。今回のバザーの収益金は、バングラデシュ・カラムディ村の子どもたちの奨学金をはじめ、村の発展のために使わせていただきます。

NGO福岡ネットワーク 次回は

5月18日(土)

アクロス福岡3Fです。

NGO福岡ネットワークの次回の定例会は、5月です。

今度は、4月末から5月初めにかけてのフィリピン・マニラでのアジア開発銀行総会の報告や、NGOのあり方についてなどおおいにためになる内容となるでしょう。バングラデシュと手をつなぐ会の会員の皆さんもどうぞご参加ください

事務所が変わります。

大木さんがしばらく福岡を離れるため、「手をつなぐ会」の事務所が5月から変わります。中央区の鳥飼になる予定ですが、住所、電話番号、地図などは決まり次第お知らせします。

新入会員のお知らせ

植松 伸之さん

海鳥舎 星野 満寿子さん

4月、5月の予定・・・皆さん、ご協力を！！

運営委員会 4月12日（金）午後7時
大木さん宅

現地訪問の事前研修
4月23日（火）午後7時
にのさかクリニック

5月の作業日

5月8日（水）9日（木）午後1：30から
場所は新しい事務所で行います。お手伝いをよろしくおねがいします。

バングラデシュと手をつなぐ会

814福岡市西新5-5-13

TEL&FAX 092-822-5795

代表 大木松子

郵便振替 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなぐ会